



隊員の活躍を肌で感じて 中学生職場体験



防弾チョッキ試着

敬礼や回れ右など基本教練の動作を学んだ後、代表の生徒が大きな声で号令をかける指揮動作に挑戦し、テレビでしか見たことのない自衛隊の仕事を肌で感じました。

生徒からは「自衛官の仕事は災害派遣だけではなく、さまざまな職場で活躍していることを知ることができた」といった感想を聞くことができた。

静岡所は、今後もこのような機会を積極的に活用し、生徒たちの職業観の育成の力添えとなるよう邁進していく。

2日目は同中学校内において、自衛官の基本的動作である基本教練や、さまざまな場面で使えるロープワークを体験した。

午後には、航空機や車両などの点検整備・管理等を行う整備補給群で、燃料タンク車などを見学した。危険物取扱者や大型特殊車両の資格を持ち、専門知識を有する隊員が活躍することで基地が成立していることを知り、生徒たちは感心した様子だった。

また、消防小隊では破壊機救難消防車や消防服を見学し、航空自衛隊にも消防士の仕事があり、消火活動や搭乗員の救助で活躍していることを学んだ。

自衛隊静岡地方協力本部静岡募集案内所（所長・河野隆准陸尉）は、6月6日（月）と7日（火）の2日間、城南静岡中学校（静岡市）の生徒19人の職場体験学習を行った。

初日は航空自衛隊静浜基地（焼津市）を訪れた。午前は、基地の管理業務を行う基地業務群を見学したほか、警備小隊で防弾チョッキを着用してその重さを体感したり、整備小隊でT-7初等練習機の説明を聞いて操縦席を見学した。



T-7 見学

後輩たちへ 母校訪問での交流



パンフレットを渡す伊藤士長

その経緯もあり部員たちも伊藤士長を身近に感じている様子で、伊藤士長を中心に部員たちが集まり、海上自衛隊に対する素朴な疑問から、在校当時の100メートル走学年1位という記録に関する話など、さまざまな話題で盛り上がった。最後はこれから大会等を控える部員たちにエールを送り、久しぶりの母校を後にした。

浜北所は、学生に身近な存在として親しまれる若年隊員とともに新たな接点の場を開拓し、母校や在校生へとPRしていく。

自衛隊静岡地方協力本部 浜北募集案内所（所長・星香織二等陸尉）は6月15日（水）、浜松東高等学校（浜松市）で行われた制度説明に、広報官の有田充行二等空曹と臨時勤務者の伊藤新菜海上士長を派遣した。

これは、自衛隊に興味のある生徒に説明を行ってほしいという学校からの要望で実施したもので、同校は伊藤士長の母校ということもあり、学生時代の恩師との再会の場ともなった。真っ白な海上自衛官の制服に身を包み、挨拶をする伊藤士長の凛々しさに、教諭は目を細めていた。

自衛官を前にして緊張する生徒に伊藤士長は屈託のない笑顔で話しかけ、有田2曹とともに自衛隊の仕事や職種などについて経験談も交えながら説明した。生徒は初めて知る自衛官のリアルな声に聞き入っていた。

制度説明を終えてから、伊藤士長が在校当時所属していたバスケット部にも訪問した。伊藤士長は元副部長で、当時バスケット部のTシャツデザインを担当しており、今もそれが受け継がれていた。



バスケット部の後輩たち